令和６年度

事　業　報　告　書

社会福祉法人　福岡ケアサービス

ケアハウス「桜ガーデン生の松原」（ケアハウス）
グループホーム「安養」（認知症対応型共同生活介護）
福岡ケアサービス・ヘルパーステーション（訪問介護事業）

グループホーム「花安養」（認知症対応型共同生活介護）

特別養護老人ホーム　初花（介護老人福祉施設）
ショートステイサービス　初花（短期入所生活介護）

福岡 100 プラザ西（管理運営）
（旧　老人福祉センター福寿園から改称）

令和６年度　事業報告　総括

令和 6 年度の総括として、介護報酬の改定等を受け、各施設、事業所においては、業務継続や感染対応、虐待対応等への対応の義務化など様々な要件が課される中、体制整備には課題もありましたが、何とか対応できました。またコロナ感染以降、我々の生活様式、行動様式も変わる中、平準的なサービス提供を滞りなく実施することができました。但し、物価・光熱水費等の高騰が事業運営に直撃しており、公的価格である介護報酬をもとにする介護施設・事業所においては、コスト増を価格転嫁することが出来ず、また副次的にかかる人件費等の高騰も重なり、大変厳しい状況は変わりなく続いています。引き続きそれぞれがコスト意識の醸成及びローコストオペレーションの取り組みを行っていく必要があります。

業界の人手不足は深刻であり、特に他産業等の賃上げなどを背景に人材の流出等にも懸念が残るところです。当法人では昨年度の離職率 17%と業界平均よりやや高めで推移はしているものの、そのうちの多くが入職して 1 年未満であり、最近は定着率、長期就業率も伸長傾向にはなっている状況です。しかしながら人材の量的確保自体が困難な状況は変わらず、引き続き多様な人材の確保への働きかけと人材育成並びに職場環境改善の取り組みに向けた取り組みを行っていく必要があります。

また、同業同種の介護サービスなど多様な形態のサービスの混在により、居住系サービス含む入所系サービスには待機者の減少傾向が深刻であり事業経営にも影響が出てきております。令和 6 年度には下山門拠点の小規模多機能事業所後のスペースをグループホームとして新たに採択を受けることが出来たため、介護サービスの量と質の向上を図りつつ、引き続きアクセシビリティの向上、選ばれる施設、事業所づくりに努めていきます。

≪報告事項≫

（１）自立支援体制の整備と推進

ケアの見える化を図り、計画・評価などのPDCAサイクルの取り組みを行うことで、ケアの質の向上を図りました。

異なるサービスの事業所間の連携に努めながら、サービス提供体制の確保に努めました。

LIFEを活用した情報提出、フィードバック情報等を活用する体制づくりに努めました。

課題は残りましたが、拠点間の協働体制の強化と連携の促進に努めました。

ICT、介護ロボット等の有用性を確認しつつ、新たな機器等の導入を行いました。

（２）働きやすい職場づくりの推進

業務改善、生産性の向上に努めるため委員会の設置等を一部の事業所では行いましたが、さらに推進するための法人一丸となり取り組みを引き続き行っていきます。

ICT等の活用などを通し、業務の効率化、業務負担の軽減など生産性の向上に努めました。

介護職員等処遇改善の仕組みを活用し、中長期的な就労継続の見通しが出来る体制整備に努めました。

（３）感染症や災害に備えた事業継続体制の構築及び地域ネットワークの推進

感染等の有事の備え、法人、拠点区分ごとの事業継続計画（BCP）の実施、既作成している計画の見直しを行いました。

有事に備えた体制の検討を行いまいましたが、導入までには至らず引き続き検討を行っていきます。

各事業所、拠点ごとに災害等含めた避難行動訓練を実施しました。

福岡市老人福祉施設協議会との連携を図りながら、有事に備えた体制確保を行いました。

（４）介護人材の確保及び育成に関する取り組みの推進

受け入れ態勢の確認や特定技能受け入れ支援機関との連携により、特定技能の外国人雇用につなげることが出来ました。

介護人材の養成校等の及び関係機関等との連携に努めることが出来ました。

（５）職場環境改善への取り組みの推進

拠点、事業所ごとに定期的な設備点検を行う事による事業所環境の維持に努めました。

光熱水費等の状況をシステム導入による定期的に把握し、ローコストオペレーションに努めました。

【令和６年度　内部研修実績】

月	目　　的	内　　容	講 師　他	参加
4 月	運営体制の整備と確認	職業倫理と法令遵守	事業部長	7 人
6 月	サービスの質の確保と向上	感染症対策研修（実技含む）	感染症対策委員会	14 人
7 月	サービスの質の確保と向上	介護事故事例検討	リスクマネジメント委員会	26 人
9 月	サービスの質の確保と向上	認知症ケアについて(動画)	グループホームスタッフ	51 人
11 月	サービスの質の確保と向上	身体拘束・虐待防止研修（動画）	リスクマネジメント研修	57 人
2 月	サービスの質の確保と向上	身体拘束廃止研修	リスクマネジメント研修	57 人
3 月	運営体制の整備と確認	感染症対策研修（BCP 訓練）	感染症対策委員会	20 人

【令和６年度　外部研修実績】（参加延べ人数 28 名　　前年度 44 名）

日　時	研　修　名	主　　催	人数
6 月 13 日	接遇研修	福岡市社会福祉協議会	1 人
7 月 20 日	摂食嚥下機能障害について	福岡県栄養士会	1 人
8 月 14 日	給食施設の衛生管理について	福岡市給食施設従事者研修会	1 人
9 月 19 日	相談援助技術研修	福岡市社会福祉協議会	1 人
9 月 20 日	ケアマネジメントから考える施設収入アップ研修	福岡市老人福祉施設協議会	1 人
9 月 20 日	人権と権利擁護	麻生教育サービス	1 人
9 月 21 日	高齢高齢者虐待と身体拘束廃止	麻生教育サービス	1 人
9 月 24 日	コンプライアンス研修	麻生教育サービス	1 人
9 月 25 日	認知症研修	麻生教育サービス	2 人
10 月 1 日	ノーリフティングケア研修	麻生教育サービス	1 人
11 月 14 日	食物アレルギーの対応について	福岡市給食施設従事者研修会	1 人
11 月 21 日	感染地策研修（手指消毒と吐物処理）	西福岡病院	1 人
11 月 25 日	高齢者虐待と身体拘束廃止	麻生教育サービス	2 人
11 月 28 日	人権研修	福岡市社会福祉協議会	1 人
12 月 5 日	メンタルヘルスケア（一般職コース）	福岡市社会福祉協議会	1 人
12 月 7 日	認知症対応型サービス事業者管理者研修	麻生教育サービス	1 人
1 月 17 日	特養における看護師の役割	福岡市社会福祉協議会	1 人
2 月 17 日	・熊本地震を経験して　災害時の対応について	福岡市給食施設従事者研修会	1 人
2 月 23 日	アンガーマネジメント	麻生教育サービス	1 人
2 月 23 日	介護現場における感染症への対策と発生時の対応	麻生教育サービス	2 人
2 月 28 日	高齢者の権利擁護と成年後見制度	麻生教育サービス	1 人
3 月 10 日	栄養の入口である『お口』の健康について知る	福岡市給食施設従事者研修会	1 人
3 月 27 日	介護施設での看取りに関する研修会	麻生教育サービス	3 人

※ノーリフティングケア普及促進マネジメント研修（3 名）毎月開催

※新規職員入職時研修（身体拘束廃止・事故防止・虐待防止・感染症・BCP）を実施

※無資格等の職員に対しての認知症介護基礎研修の受講（入職後 1 年以内の受講義務）

令和６年度事業報告書

事業所名：ケアハウス桜ガーデン生の松原

１．全体状況

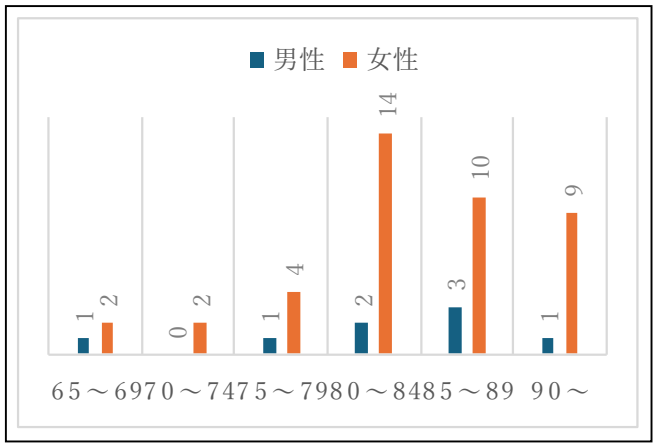
令和６年度の入居状況は 10 月に 48 名、10 月以外の月は 50 名ペースで推移しましたが、年間入居率 100%維持は達成出来ませんでした。待機者は年度初め 5 名ほどでしたが、地域包括や居宅支援事業所、病院内の地域連携室への周知活動を行い、当該年 12 月以降は 15 名に増やすことができました。ただ待機者の半数以上は、将来を見越して申し込みをされる入居意思がそこまで高くないケースであり、即入居の意思のある待機者確保をできるようにすることを今後の検討課題としています。

次に退居者について。退居された方は 11 名。退居理由は、法人内のグループホームへの移行が 1 名、外部の介護施設入居が 6 名、市営住宅・民間アパート転居が 3 名、ご家族との同居が 1 名という内訳で、前年度とそれほど最近の傾向で入退去が多い状況でした（前年度 14 名）。

ケアハウスの入居者は年々高齢化しており、介護認定を受けている方が約 7 割にのぼる。『入居者の日常生活に支障をきたさない』『ケアハウスで生活を継続する』ために、速やかに介護保険等のサービスにつなげるようにスタッフ全体で取り組んでいきます。

２．運営状況

【図 1 男女・年齢比】（平均 82.9 歳　最低 66　最高 95 歳）



【図 2　サービス種類別利用状況】

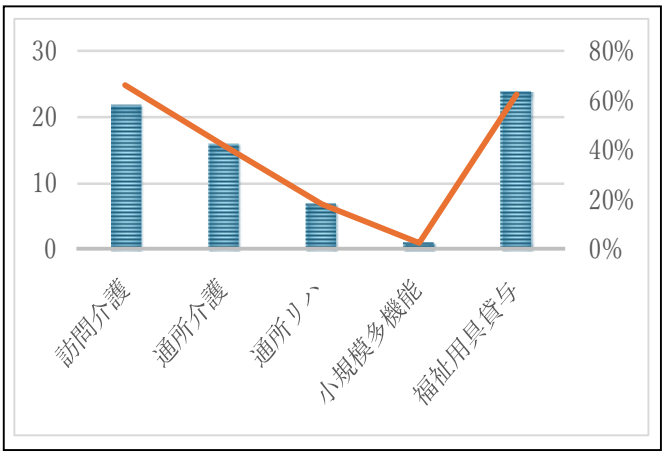
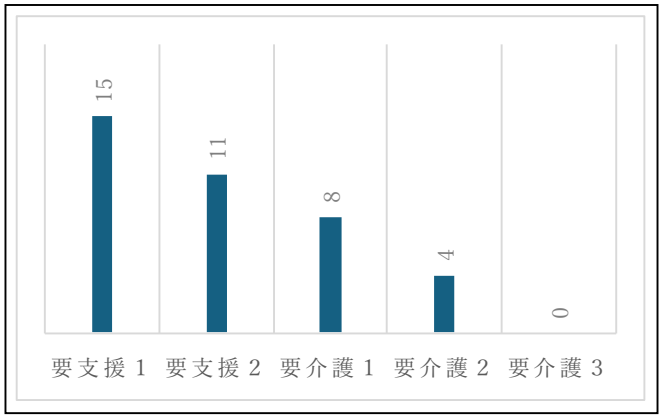
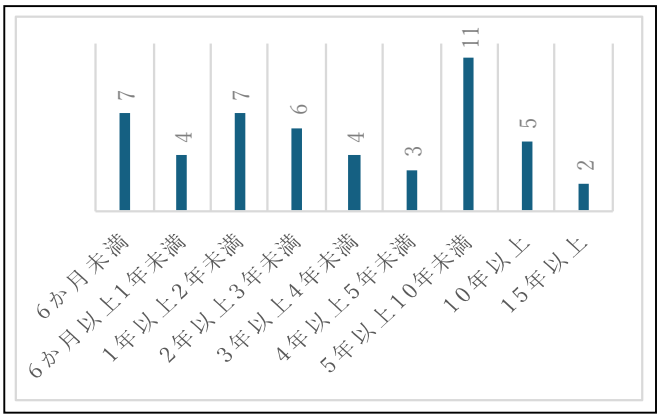


図 3 要介護認定者割合 76%←60%】（予防 69%介護 31%）



【図 4　在所期間（最長：23 年 6 か月）



令和６年度事業報告

事業所名：グループホーム安養

１． 全体状況

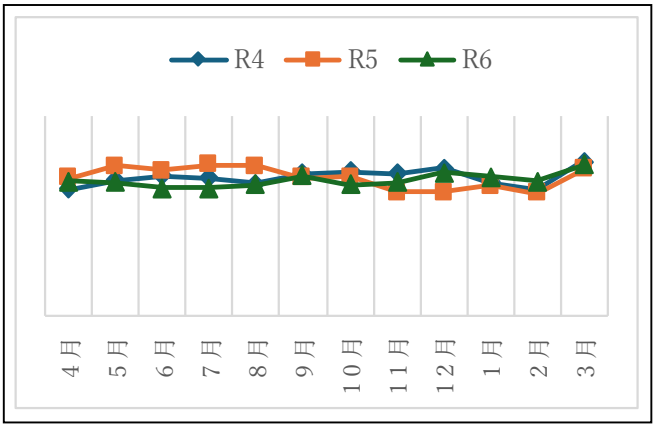
令和 6 年度は感染対策を行いながら数年ぶりにご家族を交えての植物園への外出や外食行事、買物等を行い、面会も人数制限等は設けず居室にてご入居者とご家族との時間を持てるようにし、少しずつだがコロナ前の生活へと戻せるよう工夫を行ってきました。特にご入居者の希望を聞き、個別に友泉亭公園へ紅葉見学に出掛けたり、テラスにお花や夏場は野菜を育てたりし、ご入居者様に寄り添うケアが出来たと思います。

様々な理由により職員の定着が難しい現状です。問題は様々ですが、何かあれば相談できる環境を整え、安心して働ける職場づくりを目指していきたいと思います。

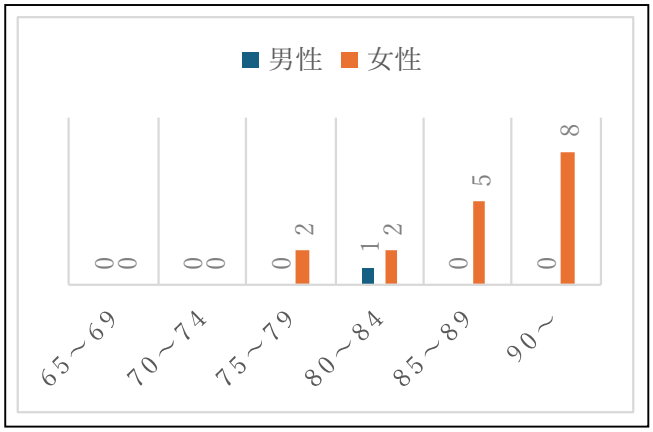
コロナやインフルエンザの感染は入居者数名見られたが、感染の拡大はなく都度すぐに終息しています。ただ 2 月にノロウイルスがスタッフ、入居者共に感染拡大してしまい、クラスターとなったため、今後も引き続き、油断することなく感染対策の徹底を行っていきたいと思います。

２．運営状況

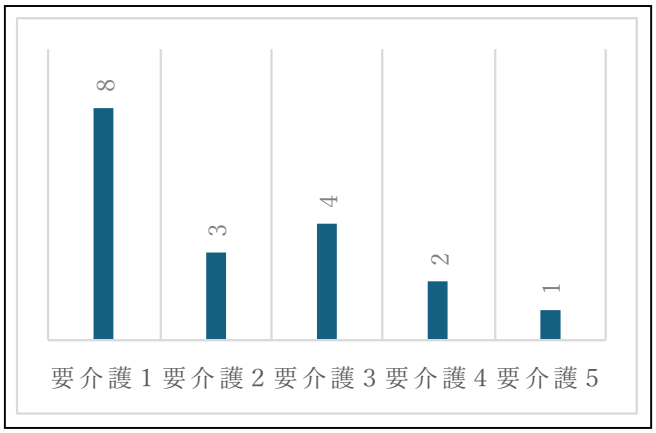
【図１　年間稼働率推移　前年比 98.1%】



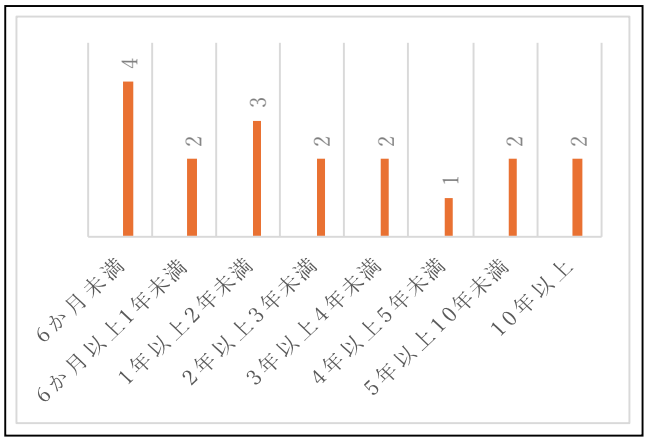
【図２　男女・年齢比】（平均 93.83 最低 77 最高 104）



【図３　要介護度別内訳】（平均介護度 2.16←2.41）



【図４　在所期間】（最長在所期間：12 年 2 か月）



令和６年度事業報告書

事業所名：福岡ケアサービスヘルパーステーション

１．全体状況

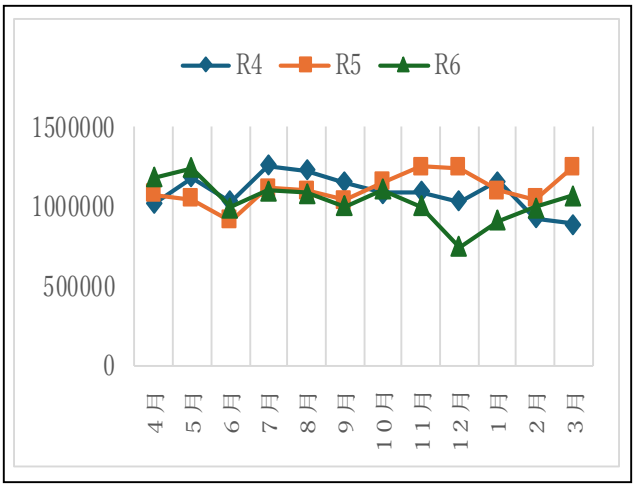
令和６年度もケアハウス入居者の支援増を念頭に取り組み、居宅支援事業所への支援内容の提案と見直しを行いましたが、利用単価の高い利用者の退去に伴う減収により年間収入は前年比低下しています。

ヘルパーの高年齢化に加え、今年度は退職者が２名も出てしまい非常勤パートとしてヘルパーを確保していますが、ヘルパー３名の内２名は６５歳以上となるため、早急に対応が必要と考えています。

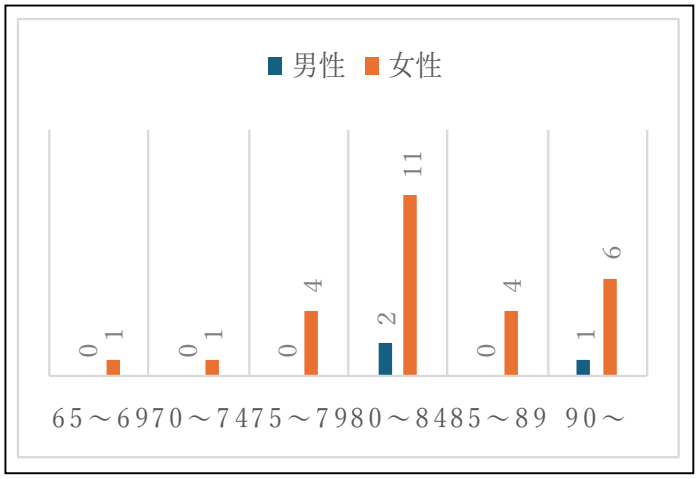
人員確保と共に７年度も引き続き利用者獲得（主にケアハウス入居者支援）と加算の継続、利用単価の底上げと人材育成を行いながら法人内事業所との連携・協力に取り組み令和８年の指定更新に備えたいと思います。

２．運営状況

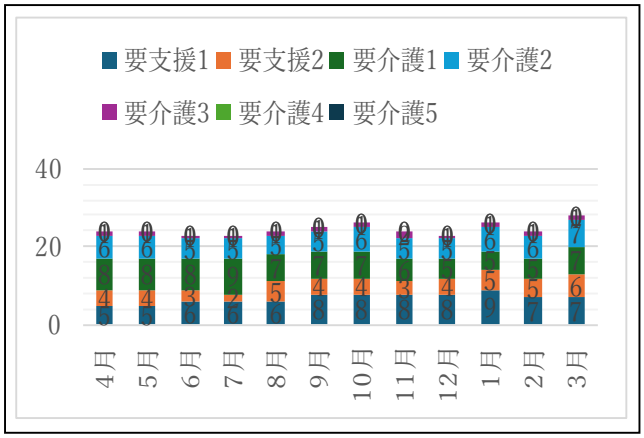
【図１　年間稼働率推移　前年比 93.2%】



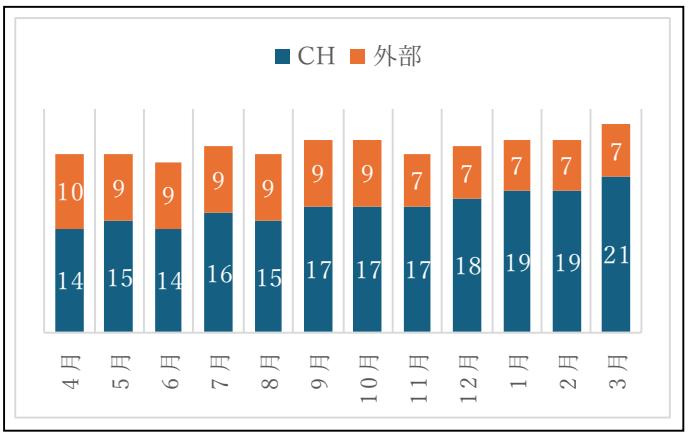
【図２男女・年齢比】（平均 83.59　最低 69　最高 96）



【図３　月次要介護内訳比率　46.4%←63.5%】



【図４　内部連携率　68%】



令和６年度事業報告

事業所名：グループホーム花安養

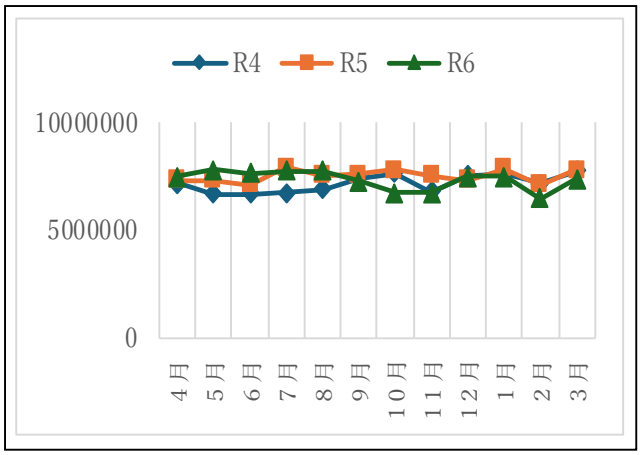
１．全体状況

令和 6 年度上半期は職員の数が安定しており、また感染症の発生も無かったため合同行事や個別での外出（買い物やドライブなど）を例年より多く提供し、地域社会との関わりを持つ機会を増やせていました。必要な法定研修（感染、身体拘束/虐待、BCP 関連）は法人研修と自施設研修両方で実施しています。入退去の状況については退去者４名で１名が看取り、１名が他施設への転居、２名が入院先・搬送先でのご逝去。新規入居までの期間は最短 3 週間、最長 3 か月半とバラつきがあった。現在、待機者がほとんどいない状況であり、事業所の周知広報活動は課題である。

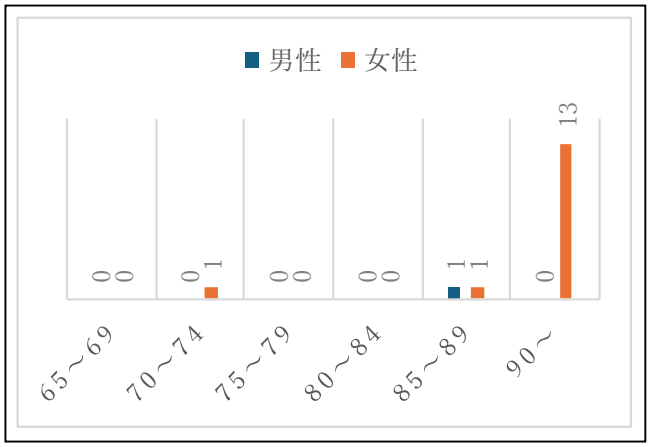
入院件数は前年より増加しているが、毎回病院側と密な連絡を取り、出来る限りの早期退院を実現できるように受け入れ準備をしています。入院期間は１カ月未満がほとんどであったが、中には３カ月近い入院もありました。また同じ入居者が入院を繰り返される傾向にあり、原因は肺炎や圧迫骨折が多く見られたため、この点も今後の課題です。なお、令和 6 年度には、新規ユニットの増床について採択を受けることが出来、次年度体制づくりと体制強化を目指していきたいと思います。

２．運営状況

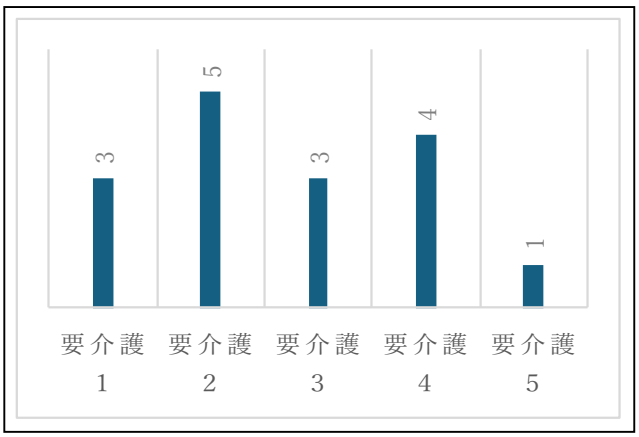
【図１　年間稼働率推移　前年比 97.5%】



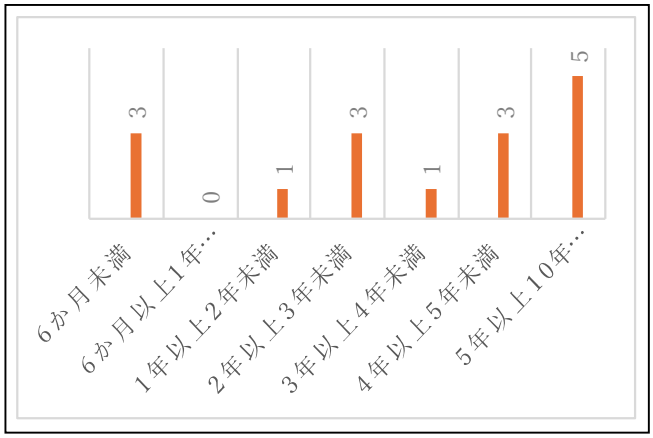
【図２男女・年齢比】（平均 91.76 歳　最低 73 最高 101）



【図３　要介護度内訳】（平均介護度 2.6←2.68）



【図４　在所期間】（最長在所期間：9 年 6 か月）



令和6年度事業報告書

事業所名　特別養護老人ホーム　初花

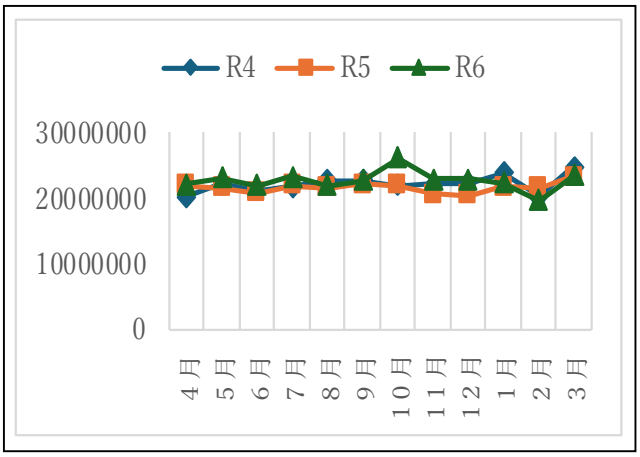
１．全体状況

令和6年度は、改正介護保険に対応し運営体制の確保に努めました。また様々な施設等の情報を得ながら可能な範囲での運営体制の改善に努め、将来を見据えた体制整備を行いました。

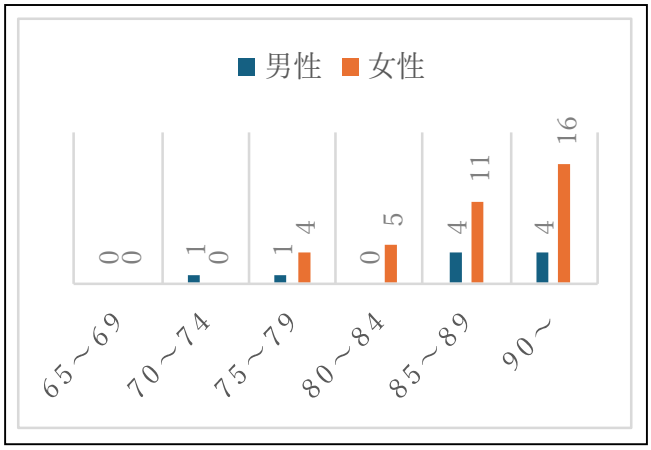
但し、本年度は22名の退去、22名の入退去者の入れ替わりが激しく、年間稼働率も9割を切り、それに伴う間接業務の増加、事務負担感の増加は顕著となりました。なお最近の傾向として入所待機期間の短縮化（申込から1か月以内に入居5名）や待機者数の減少（待機者14名、当該年度申込者30名）という状況は近隣の施設でも同様の状況があり、入所系施設として今後、とりわけより速やかな受け入れより細やかなサービスの構築は欠かせない要素であり、加えて外部機関や地域連携の強化など含め情報発信など課題が複雑化しています。なお本年度は、補助金を活用し、走行用リフト及びインカムを導入し、介護現場の負担軽減並びにサービスの質の向上のための体制整備を行いました。併せて現在、誤嚥性肺炎プロジェクト、ノーリフティングケアの取り組みを進めていることもあり、今後はさらに多様化する社会のニーズに合わせた柔軟な対応策を模索していく必要があります。

２．運営状況

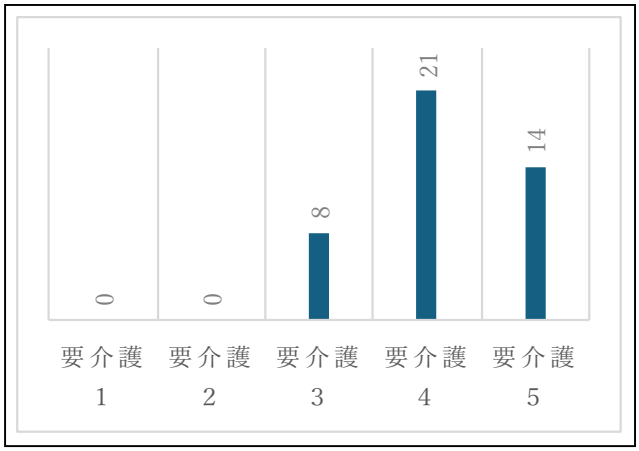
【図１実績】（収入実績前年比　105%）



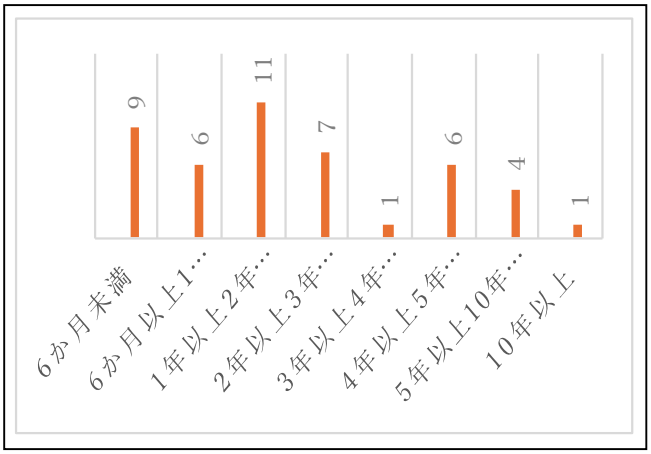
【図２男女・年齢比】（平均87.79歳　最低73　最高100）



【図３　要介護度内訳】（平均介護度　4.11←4.07）



【図4　在所期間】（最長在所期間：12年）



令和6年度事業報告書

事業所名　福岡100プラザ西
（旧　老人福祉センター福寿園）

令和６年度は、人生100年時代に相応しい施設に福寿園が生まれ変わる過渡期の年にあたり、リニューアル工事に伴う仮事務所、シニア教室や高齢者創作講座、センター企画講座や各種イベントの代替実施場所の確保や地域の施設関係者との関係構築に追われる１年となりました。年度途中、職員数の減少や、施設長の交代、リニューアル工事の開始などもございましたが、概ね事業計画に沿って各事業を進めることができたと考えます。　特に、シニア教室や高齢者創作講座、センター企画講座において、予定実施回数や生徒数が減少することがなく、リニューアル工事が始まった１月以降も実施できたことは大きな成果と考えます。また、コーディネーターと対話を重ね、良い関係を構築できたことで、新規講座の開講や新規受講生の増加など社会参加の実績や２０２４歳忘れ落語＆人生講話の開催につながりました。今後も豊富な知識と経験を持つコーディネーターと協力しながら社会参加に貢献して参ります。

なお、健康ゲーム指導士を複数の職員に取得させ新しい試み（Eスポーツ）に挑戦したことや福岡西陵高等学校「アイデア屋」事業に参加し、世代間交流も兼ねて高校生による社会参加に関するイベントを実施したことも社会参加を進めていく中で、とても大きな意義があったと考えます。

（１）　利用者数および部屋稼働率の回復

部屋稼働率については、回復はできなかったものの、各教室に懇親会や発表会練習、自習のための利用を促し、また、計画外のイベント（西陵高校生によるイベント等）やコーティネーター企画のイベント（福岡オトナビ塾）に場所を提供することで、前年と同じ水準を維持できたと考えます。

（２）　就業創業支援事業の充実

シルバー人材センターや高齢者の人材紹介派遣会社と連携を取りながら、直接的支援となる高齢者就業支援講座を展開していきましたが、例年と変わらず、苦戦を強いられ、応募者数は低迷のままでした。就業の情報等を得るために必要な操作技術を学ぶ「スマホ取扱い講座」や「ちょこっとLINE講座」も受講者数は少ないものの、受講者の満足度は非常に高いものとなりました。今年度は個別の「IT相談」を常時受付の形で開催しました。

（３）　近隣施設や老人いこいの家鍵管理人（公民館長含む）との関係構築

リニューアル工事期間中の教室やイベントの代替実施場所の確保や各事業の展開を今後行っていくために、その足掛かりになる場所を下記の施設に絞って関係構築に努めました。毎月4カ所への訪問活動を行うことは叶いませんでしたが、可能な限り足を運び、その甲斐あって、教室代替場所やイベント開催場所としての利用することが可能となりました。特に、公民館とのつながりが強い福岡市西部地域交流センターの相談員とのパイプ作りをできたことは、今後の地域への事業展開に大きく影響するものと考えております。

３Rステーション、福岡西陵高等学校、公民館（壱岐・壱岐南・城原・壱岐東・玄洋公民館・西都公民館）自治会（下山門団地５区、下山門団地９区、拾六町１・２丁目、生松台）、福岡市西部地域交流センター（さいとぴあ）、西市民センター、その他（姪の浜ポンプ場、戸切人権のまちづくり館）他